

様式3

教員資格及び教育内容などの自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
医療健康科学部・理学療法学科	5人	1人	3人	0人	9人	8人	8人	0人	49人	19.5人	
計	5人	1人	3人	0人	9人	8人	8人	0人	49人	-	

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	担当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎	科学的思考の基盤	総合教養	13	安達 未来 溝井 浩 南津 佳広 藤川 智彦 横山 宏 田中 則子 森 善龍 園田 大地 久松 潤之	兼任 兼任 兼任 兼任 兼任 兼任 専任 兼任 兼任 兼任
基礎	科学的思考の基盤	総合ゼミナール	13	松村 一徳	兼任
基礎	科学的思考の基盤	からだの科学	13	赤滝 久美	専任
基礎	科学的思考の基盤	医学英語Ⅰ	13	松本光平	専任
基礎	科学的思考の基盤	医学英語Ⅱ	13	森下 聖	専任
基礎	科学的思考の基盤	数学基礎演習	13	山下 陽一郎	兼任
基礎	科学的思考の基盤	物理学基礎演習	13	中村 英夫	兼任
基礎	科学的思考の基盤	コンピュータリテラシー実習Ⅰ	13	島袋 舞子	兼任
基礎	科学的思考の基盤	コンピュータリテラシー実習Ⅱ	13	島袋 舞子	兼任
基礎	科学的思考の基盤	プログラミング基礎実習Ⅰ	13	島袋 舞子	兼任
基礎	科学的思考の基盤	バイオメカニクス	13	森下 聖	専任
基礎	科学的思考の基盤	プログラミング基礎実習Ⅱ	13	島袋 舞子	兼任
基礎	科学的思考の基盤	卒業研究	39	赤滝 久美 小柳 磨毅 田中 則子 越野 八重美 羽崎 完 木村 佳記 成 俊弼 森下 聖 松本光平	専任
基礎	科学的思考の基盤	キャリアデザイン	13	赤滝 久美 森下 聖 松本光平	専任
基礎	人間と生活	政治学	13	中川 洋一	兼任
基礎	人間と生活	情報活用リテラシー	13	大村 基将	兼任
基礎	人間と生活	発達心理学	13	平沼 博将	兼任
基礎	人間と生活	アジアの言語と文化	13	王 少鋒	兼任
基礎	人間と生活	ヨーロッパの言語と文化	13	春藤 寛	兼任
基礎	人間と生活	大阪の文化と歴史	13	坂本 知宏 小田 直寿 吉村 智博 向村 九音	兼任

基礎	人間と生活	高齢者社会と医療福祉	13	長倉 俊明	兼任
基礎	人間と生活	歴史学の世界	13	檜本 喜一	兼任
基礎	人間と生活	経済学の世界	13	牧野 泰典	兼任
基礎	人間と生活	哲学の世界	13	坂本 知宏	兼任
基礎	人間と生活	文学の世界	13	富田 成美	兼任
基礎	人間と生活	日本国憲法	13	中里見 博	兼任
基礎	人間と生活	教育制度論	13	佐野 正彦	兼任
基礎	人間と生活	ジェンダー論	13	堀 あきこ	兼任
基礎	人間と生活	情報社会と情報倫理	13	大村 基将	兼任
基礎	人間と生活	文字の文化と歴史	13	藤川 智彦	兼任
基礎	人間と生活	国際交流論	13	王 少鋒	兼任
基礎	人間と生活	平和学	13	中里見 博 坂本 知宏 平沼 博将	兼任
基礎	人間と生活	日本の近代史	13	小田 直寿	兼任
基礎	人間と生活	企業社会と労働	13	牧野 泰典	兼任
基礎	人間と生活	Core English 1	13	立本 秀洋 増田 純一 原田 靖也	兼任
基礎	人間と生活	Core English 2	13	立本 秀洋 増田 純一 原田 靖也	兼任
基礎	人間と生活	Core English 3	13	中内 啓太 南津 佳広	兼任
基礎	人間と生活	Core English 4	13	中内 啓太 南津 佳広	兼任
基礎	人間と生活	Intermediate English 1	13	立本 秀洋	兼任
基礎	人間と生活	Intermediate English 2	13	立本 秀洋	兼任
基礎	人間と生活	中国語1	13	王 少鋒	兼任
基礎	人間と生活	中国語2	13	王 少鋒	兼任
基礎	人間と生活	中国語3	13	王 少鋒	兼任
基礎	人間と生活	中国語4	13	王 少鋒	兼任
基礎	人間と生活	スポーツ文化論	13	村木 有也	兼任
基礎	人間と生活	スポーツ実習1	13	金田 啓稔 小林 直生 堀口 龍佑	兼任
基礎	人間と生活	スポーツ実習2	13	金田 啓稔 小林 直生 堀口 龍佑	兼任
基礎	人間と生活	スポーツ実習3	13	金田 啓稔	兼任
基礎	社会の理解	日本語上達法1	13	松村 一徳 八島 由香	兼任
基礎	社会の理解	現代社会と青年の心理	13	安達 未来	兼任
基礎	社会の理解	異文化の理解	13	王 少鋒	兼任
基礎	社会の理解	社会生活と法	13	中里見 博	兼任
基礎	社会の理解	現代社会を考える	13	中里見 博 坂本 知宏 平沼 博将 佐野 正彦 金田 啓稔 村木 有也 安達 未来 松田 正貴 大村 基将 松村 一徳	兼任

基礎	社会の理解	日本語上達法2	13	松村 一徳 安達 未来	兼任
基礎	社会の理解	コミュニケーション論	13	羽崎 完	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	運動発達学	13	羽崎 完	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	運動生理学	13	赤滝 久美	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学	13	赤滝 久美	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	生理学演習	13	赤滝 久美	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	13	赤滝 久美	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学演習	13	赤滝 久美	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	基礎医学実習	26	赤滝 久美 松本光平	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	機能解剖学	13	田中 則子	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	機能解剖学演習	13	田中 則子	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	運動学実習	26	小柳 磨毅	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	スキルアップセミナー	13	羽崎 完	専任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	介護予防学	13	成 俊弼	専任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	一般臨床内科学	13	越野 八重美	専任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学	13	小柳 磨毅	専任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	神経内科学	13	羽崎 完	専任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	13	羽崎 完	専任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	心の健康増進	13	高田 雅章	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	チームリハビリテーション学特論	13	越野 八重美 井上 博之 吉田 泉	専任 兼任 兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	総合理学療法学演習B	13	越野 八重美	専任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	運動障害予防学	13	小柳 磨毅	専任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション工学	13	岩下 篤司 小西 有人	兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	13	田中 則子	専任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	障害学演習	13	森下 聖 松本光平	専任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	理学療法学概論	13	木村 佳記	専任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	総合理学療法学演習C	13	越野 八重美	専任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	アカデミック・ライティング	13	成 俊弼	専任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	ベーシックキャリアデザイン	13	赤滝 久美 森下 聖 松本光平	専任
専門分野	基礎理学療法学	確率・統計	13	越野 八重美	専任
専門分野	基礎理学療法学	基礎医学特論1	13	赤滝 久美	専任
専門分野	基礎理学療法学	基礎医学特論2	13	赤滝 久美	専任
専門分野	基礎理学療法学	物理療法学実習	26	成 俊弼	専任
専門分野	基礎理学療法学	運動療法学	13	木村 佳記	専任
専門分野	理学療法管理学	医療関係法規	13	成 俊弼 松崎 秀明	専任 兼任
専門分野	理学療法管理学	理学療法管理学	13	木村 佳記	専任
専門分野	理学療法管理学	医療接遇マナー学	13	木村 佳記	専任
専門分野	理学療法評価学	理学療法評価学演習1	26	田中 則子	専任
専門分野	理学療法評価学	理学療法評価学演習2	26	田中 則子	専任
専門分野	理学療法評価学	理学療法評価学	13	田中 則子	専任
専門分野	理学療法治療学	スポーツトレーニング学	13	小柳 磨毅	専任
専門分野	理学療法治療学	神経系理学療法学演習B	13	羽崎 完	専任

専門分野	理学療法治療学	臨床医学特論	13	越野 八重美 森下 聖 松本光平	専任
専門分野	理学療法治療学	日常生活活動学実習	26	木村 佳記	専任
専門分野	理学療法治療学	義肢装具学実習	26	成 俊弼	専任
専門分野	理学療法治療学	運動療法学演習	13	小柳 磨毅	専任
専門分野	理学療法治療学	運動系理学療法学演習A	13	小柳 磨毅	専任
専門分野	理学療法治療学	運動系理学療法学演習B	13	小柳 磨毅	専任
専門分野	理学療法治療学	内部障害系理学療法学演習A	13	越野 八重美	専任
専門分野	理学療法治療学	内部障害系理学療法学演習B	13	越野 八重美	専任
専門分野	理学療法治療学	小児系理学療法学演習	13	羽崎 完	専任
専門分野	理学療法治療学	神経系理学療法学演習A	13	越野 八重美 木村 佳記	専任
専門分野	理学療法治療学	神経系理学療法学演習C	13	羽崎 完	専任
専門分野	理学療法治療学	スポーツ障害とリハビリテーション	13	小柳磨毅	専任
専門分野	理学療法治療学	老年系理学療法学演習	13	羽崎 完	専任
専門分野	理学療法治療学	実践理学療法学演習B	13	森下 聖 松本光平	専任
専門分野	理学療法治療学	実践理学療法学演習A	13	越野 八重美 森下 聖 松本光平	専任
専門分野	理学療法治療学	臨床理学療法学演習A	13	森下 聖 松本光平	専任
専門分野	理学療法治療学	臨床理学療法学演習B	13	森下 聖 松本光平	専任
専門分野	理学療法治療学	臨床理学療法学演習C	13	越野 八重美	専任
専門分野	理学療法治療学	臨床理学療法学特論	13	羽崎 完 池田 耕二	専任 専任 兼任
専門分野	地域理学療法学	福祉環境デザイン論	13	成 俊弼	専任
専門分野	地域理学療法学	総合理学療法学演習A	13	田中 則子 疋田 太刀夫	専任 兼任 兼任
専門分野	地域理学療法学	地域理学療法学演習	13	成 俊弼	専任
専門分野	地域理学療法学	地域健康支援実習	26	成 俊弼 森下 聖 松本光平	専任
専門分野	臨床実習	臨床実習1 時間割記載なし	13	成 俊弼 森下 聖 松本光平	専任
専門分野	臨床実習	臨床実習2	39	田中 則子 森下 聖 松本光平	専任
専門分野	臨床実習	臨床実習3	78	小柳 磨毅 田中 則子 越野 八重美 羽崎 完 木村 佳記 成 俊弼 森下 聖 松本光平	専任
専門分野	臨床実習	臨床実習4	130	小柳 磨毅 田中 則子 越野 八重美 羽崎 完 木村 佳記 成 俊弼 森下 聖 松本光平	専任

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない	1

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実施する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習（通所・訪問リハビリテーション、老健施設の見学）	1年後期	医療接遇マナー学	1年後期
		コミュニケーション論	1年後期
コミュニケーション実習・検査測定体験実習（情報収集、検査測定の実践）	2年後期	機能解剖学演習	2年前期
		理学療法評価学	2年前期
		理学療法評価学演習Ⅰ	2年前期
		理学療法評価学演習Ⅱ	2年後期
		運動療法学	2年後期
総合評価実習（基本的理学療法評価の実践）	3年後期	神経系理学療法学演習A	2年後期
		日常生活活動学実習	2年後期
		実践理学療法学演習A	3年前期
		実践理学療法学演習B	3年前期
		運動系理学療法学演習A	3年前期
		内部障害系理学療法学演習A	3年前期
		小児系理学療法学演習	3年前期
		義肢装具学実習	3年前期
総合評価治療実習（理学療法評価とゴール設定およびプログラムの立案の実践）	4年後期	障害学演習	3年前期
		臨床理学療法学演習A	3年後期
		運動系理学療法学演習B	3年後期
		老年系理学療法学演習	3年後期
		神経系理学療法学演習B	3年後期
		内部障害系理学療法学演習B	3年後期
		地域理学療法学演習	3年後期
		チームリハビリテーション学特論	4年前期
		総合理学療法学演習A	4年前期
		臨床理学療法学特論	4年前期
		臨床理学療法学演習B	4年前期
		地域健康支援実習	4年前期・後期

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な臨床実習指導者の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な臨床実習指導者の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	IRE委員会
委員名（委員長）	学長（議長）、副学長、各学部長、共通教育機構長、各研究科長、大学事務局長、学務部長、学務部事務部長、就職部長、図書館長、MC2センター長、CEDセンター長
組織の開催頻度	年間5回程度
組織の取り組み内容	・教育水準の向上に向けた活動
	・教員の研究水準向上にむけた活動
	・管理運営改善に向けた活動
自己点検・評価結果の公表	https://www.osakac.ac.jp/about/self-assessment/

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	キャンパス教務委員会
	委員構成等	学部長（委員長）、各学科・センター選出委員、四條畷事務部長
	改善の仕組みの実際	シラバスで提示された授業等科目の学修目標に対する評価、及び学生アンケート等の結果から、科目毎の学修成果の達成状況を確認している。

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

○自己点検・評価の結果を全教員に周知し、判定2以下の項目については継続的に改善に努める。
--